



六華の心

酒田市立第六中学校
学校だより 第1号
校長 加藤 浩昭
令和4年4月12日



「六華の心があふれる学校」に

そして、「感じて、気づいて、考えて、行動できる六中生」に

4月7日(木)。午前中に新任式、始業式、午後には入学式を行い、本校の令和4年度がスタートしました。今年度も開校以来六中が紡いできた「六華の心」を大切に、またその深化を図り、379名の全校生徒と「六華の心があふれる学校」を目指して、学校教育活動に取り組んでいきたいと考えています。「六華の心」は、様々な行動に結びつく大切な心を表していると考えます。日常生活の中で行動化し、意識せず自然にできるようになると、いい人間関係づくり、集団づくりにもつながります。そしてそれは子どもたちの「生きる力」を育むものです。保護者及び地域の皆様には、引き続き「六中の応援団」として、生徒、教職員の教育活動を支えていただきますようお願い申し上げます。

■ 1 学期始業式【校長の話】 ※2、3年生に向けて話をした内容です。(一部抜粋)

(前略)年度の初めに当たり、3年生、2年生に期待したいことをお話します。

3年生の皆さん。この4月からはあなたが「六中の顔」です。3年生の姿が、日々の有りようが、そのまま「六中の姿」となります。これまで以上に誇れる学校を作り、義務教育最後の1年を充実したものにしてください。そして来年の3月には自分の希望の進路を切り開き、胸を張って六中を卒業するぞ！という気概で頑張ってください。

2年生は、クラス替えがありました。新しい仲間との出会いの春です。今はまだ不安を持っている人もいるかもしれませんが、でも大丈夫。自分から心を開き、昨年以上に良いクラスを作り、3年生を支え、1年生をリードし、しっかり学校の屋台骨を担う学年になってください。

そして、新しく入学してくる122名の新入生を加えて、379名の全校生徒の力を合わせて、元気な学校、何事にも本気になれる学校、みんなの笑顔が輝く学校にしていきましょう。

さて、3月、前任の齋藤校長先生から、六中は「六華の心があふれる学校」を目指しているという話を聞きました。六中ができて以来、生徒が、先生方が、そして保護者のみなさんや地域の方々が、大切にしてきた6つの心。その一つ一つが、中学校で学び、予測不可能といわれる未来を自分で切り開いていくために欠かせない力につながるものだと思います。そこで、昨年度以上に「六華の心があふれる学校」にするために、皆さんに1年間大切にしてほしいことがあります。それは、どのようなことも「自分事」として考えるということです。言葉を換えれば、「中学生らしい主体性を持ち、それを磨いていくこと」と言ってもいいでしょう。

居心地の良い学級・学年、全校生徒が輝ける学校は、誰かが与えてくれるものではありません。皆さん自身が、自分で、自分たちで創っていくものです。自分の思いや願いを大切にすると同時に、周りの人の思いや願いを受け止め、対話を通してお互いが納得できるところを探りだし、一人ひとりの個性、良さを思い切り発揮し、みんなが安心して生活できる六中にしていきたいと思います。

最後に、そのための4つのポイントについて話をします。

それは「感じて」、「気づいて」、「考えて」、「行動」をすることを大切にすることです。感じる心、気づく目、考える頭、行動する勇気を備えた六中生。そんな六中生になってくれることを期待します。みんながこのことを心にとめ、1日1日を大切に過ごすことができれば、必ず「六華の心があふれる学校」ができると信じています。先生方も、皆さんと一緒に考え、行動していきます。力を合わせて頑張っていきたいと思います。

※ 話の初めに、隣同士「好きな季節とその理由」を紹介する場面を取りました
2、3年生に期待することを話す場面では、起立をすること、それぞれの学
激励の拍手をすることを求めました。急なお願いでしたが、自然と会話をし
ずっと起立し、温かい拍手をする生徒の姿に、期待でいっぱいになりました

※ また、式では2年生の堀井大和さんと3年生の渋谷孝太さんが、学年を代表
て抱負を発表してくれました。



職員玄関脇の桜が咲き始めました

122名の新入生を迎え入学式

堂々とした元気な返事。しっかりと顔を上げ、目を輝かせながら式に臨む姿に、新生活への意気込みを感じる式となりました。

式の中では、新入生を代表し、佐藤耀さんが新生活への意気込みを発表し、また入学式に引き続き行われた生徒会入会式では、生徒会長の齋藤愛姫さんの歓迎の言葉に応え、柴田柚菜さんが仲間入りの言葉を発表してくれました。

■校長式辞

式辞では以下のような話をしました。要点だけ記載します。



○義務教育の目的は、将来社会に出た時に自分の武器となる「使える道具」を自分の手で一つでも多く手に入れること。小学校6年間で手に入れてきた道具をバージョンアップさせ、中学校生活の中で新しい道具を手に入れよう

←アニメ「ドラえもん」におけるドラえもんとのび太君のかかわりを例にドラえもんの四次元ポケットになぞらえて話をしました。

四次元ポケット

○そのために…

① 六中生が大切な伝統として受け継いできた「六華の心」をしっかりと意識し身につける。

←「六華の心」の精神について紹介するとともに、6つの心を大切にし、自分のものにすることが「真の使える道具」を手に入れることにつながることを伝えました。

② 一番身近な学級・学年の仲間をかけがえのない存在と考え、中学校生活の基礎となる1学年の生活を自分たちの手で創っていく。

←ドラえもんの登場人物たちのように、仲間の個性を尊重し、対話と協働を大切に、自分たちの生活を自分たちでつくっていくことの意義を伝えました。

③ 「感じて、気づいて、考えて、行動」することを忘れず、主体性を身につけ磨いていく。

←「六華の心」のきれいな花を咲かせるための土となる、感じる心、気づく目、考える頭、行動する勇氣を持って欲しいと伝えました。



できることを模索しながら…

コロナ禍での3回目の入学式。今年度もご来賓の皆様、在校生の臨席はかないませんでした。保護者の皆様による新入生の学級開きの参観も、密を避ける観点から難しいと判断し、2、3年生の8教室を使ってリモートで各学級の様子をご覧いただくことに挑戦しました。前日の職員によるリハーサル。イメージ通りにいかず、よりよいやり方を模索して意見を出し合う先生方の様子を、校長としてうれしく見ておりました。そこには、保護者の皆様に少しでもご自分のお子さんが1年間生活をする学級の様子をお伝えし、安心していただきたいという気持ちがありました。その後も、急遽必要になった機材を準備するために、校外に足を向ける姿もありました。対話と協働の精神を大切に、機動力を発揮できる職員集団を目指していきます。

新任の挨拶

このたび、酒田市立第六中学校の校長を拝命し、4月1日より着任いたしました加藤浩昭（かとう ひろあき）です。

3年ぶりの酒田、9年ぶりの中学校勤務。新鮮な気持ちで勤務させていただいています。

自分自身が「六華の心」を磨き、生徒、保護者、地域のために「自分にできること」、「自分だからできること」を自問しながら精一杯勤めさせていただきます。

